

木蓮に続いて土筆が姿を現し、タンポポや菜の花やサクラ……が、次々と花を開き、新しいおひさまを迎えています。流れてくる春の風には未知の香りが漂っていて、私たちはちょっぴりの不安と大きな期待を感じますが、それらどちらをもひくくめで、「今」からのはじめての一步いっほを、よろこびとして踏み出していきたいと思います。

先日「なかよし(預り保育)」の子たちと、北嵯峨の御陵さんに散歩に出かけました。公園ではないので、もちろん遊具も何もなく、砂利が敷きつめられている前庭と周囲の杉木立ちだけの所なのですが、その何もない場所も子どもたちは好きなのです。空気がおいしくて、「世界は深い」と思わないではいられないような、靈気が漂っている所で、もしかすると夜になると天狗が集会を行いそうな神秘さも、昼間なら魅力的です。砂利の前庭には切り株がひとつあり、その根っこところに穴が開いていて……小石をその穴の上から落とすと、カランカランという音を響かせながら下に小さな山ができていきます。

次々と注ぎこみ傘の平で受けてもみたくになります。小さな穴と小石たちの不思議な魅惑に1時間も遊ばせてもらいました。

そのシンプルな素材たちが遊びの原点を呼び起こさせてくれるような、余分なものがない自然の素材さに囲まれているその場所が、遊び場の原点を思い出させてくれるような体験でした。

ちなみにその小石たちとのやりとりはさらに広がり……いい音を立てながらの気持ちいい感融のかけこや、くつの上に小石をのせて向う側まで落とさないでいけるか遊びや、小石の山づくり、小石のお絵描き、仕舞には小石の上をごろごろ転がる遊びまで……!!

テクノロジーのさらなる向上も経済の豊かさも、きっときっと大切なのでしょうが、素材なものに限りない可能性とよろこびを見い出せる精神文化を、自分の内にふくらませることができ生き方をそれぞれの「私」が育て、共有していくことがより大切な時代となるような気がしています。

私たち人間が作り続けているアンバランスな環境や不条理な社会の中でも、たくさんのいのちたちが芽吹き、子どもたちが生まれ大きくなっていきます。

新しい仲間と新しい生活が、夢窓の砂場でも、園舎の隅でも……始まります。私たちの中からたくさんのドラマが生まれ、私たち自身をふくらませてくれることでしょう。一步いっほの「よろこび」と共に……!!

よき一年に なりますように。

園長 升光 泰雄

